

○水生生物モニタリング調査結果一覧（真野川D）

＜真野川D　水質底質採取項目＞

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
調査地点	水質	底質	水質（Cs）	水質（Sr）	底質（Cs）	底質（Sr）
D－4 a	○	○	○	○	○	○

＜真野川D　現場測定項目＞

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
調査地点	緯度	経度	日	時刻（水）	時刻（泥）	水温（℃）	泥温（℃）	性状	色相	混入物	全水深（m）	透視度（cm）
D－4 a	37.7308°	140.9081°	R6.12.10	08:15	08:35	7.4	7.2	砂	10YR4/2	なし	0.13	>50

＜真野川D　一般分析項目・放射性物質分析項目　水質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD （mg/L）	COD （mg/L）	D0 （mg/L）	電気伝導率 （mS/m）	塩分	TOC （mg/L）	SS （mg/L）	濁度 （度）	Cs-134 （Bq/L）	Cs-137 （Bq/L）	Sr-90 （Bq/L）
調査地点	緯度	経度	日	時刻												
D－4 a	37.7308°	140.9081°	R6.12.10	08:15	7.3	0.6	1.7	11.3	13.5	0.07	0.9	<1	0.8	N.D.（0.0016）	0.0014	0.00083

注）N.D.は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜真野川D　一般分析項目・放射性物質分析項目　底質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成								Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)			
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2～75mm) (%)	粗砂 (0.85～2mm) (%)	中砂 (0.25～0.85mm) (%)	細砂 (0.075～0.25mm) (%)	シルト (0.005～0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)						
調査地点																								
D－4 a	37.7308°	140.9081°	R6.12.10	08:35	7.6	466	20.3	2.3	2.2	2.710	42.6	16.9	11.8	23.9	0.8	4.0	1.5	19	1.6	160			1.2	

注）N.D.は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜真野川D　分析項目　水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 （kg-wet）	特記事項			放射性セシウム（Bq/kg-wet）			Sr-90 （Bq/kg-wet）
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
D-4 b	真野川本流	37.7312°	140.9096°	R6.12.7	藻類・植物	－	－	－	－	河床付着物（藻類を含む）	－	0.017	－	－	－	34	N.D.（4.9）	34	－
					節足動物	昆虫	トビケラ	ヒゲナガトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒゲナガカワトビケラ	106	0.013	幼虫	－	－	17	N.D.（3.3）	17	－
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	11	0.40	未成魚/成魚	不明消化物	内臓除去	5.3	N.D.（0.35）	5.3	－
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Carassius auratus</i>	ギンブナ	2	0.64	成魚	不明消化物	内臓除去	3.6	N.D.（0.34）	3.6	－
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	サンフィッシュ	<i>Micropterus dolomieu</i>	コクチバス	1	0.047	未成魚	不明消化物	内臓除去	5.4	N.D.（1.1）	5.4	－
D-5	真野川本流	37.7214°	140.8889°	R6.12.1	脊椎動物	硬骨魚	サケ	サケ	<i>Oncorhynchus masou</i>	ヤマメ	14	0.73	未成魚/成魚	空胃	内臓除去	68	N.D.（1.4）	68	－

- ※１：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。
- ※２：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。
- ※３：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。
- ※４：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、　内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、　除去して測定した。
- ※５：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。
- ※６：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。
- ※７：N.D.は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。
- ※８：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。